

## ～2008・11・25(火) 21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”の設立総会を開催～

2008・11・25(火)伊達市噴火湾文化研究所 ゲストハウスにおいて、21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”の設立総会が開催されました。当日は会員30名のうち27名の方に参加いただき、世話人代表の挨拶・趣旨説明・自己紹介・本日のテーマ・次回開催日の確認を致しました。いよいよ、将来の博物館づくりを市民が考える「21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”」が本格的に動き始めました。

同時に、ニュースレター“ミュゼ”を皆様にお届けする事になりました。

第1号には、噴火湾文化研究所所長大島直行氏・“ミュゼ”代表伊達君代さん・市民学芸員渡辺久美子さんにご協力を頂きました。

また、総会に参加できなかった矢元信一さん・奥村孝裕さんのご紹介を致します。

## ～21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”設立総会を終えて～ <世話人代表 伊達君代>

私たちの呼びかけに応じて下さった方々の自己紹介を聞き終えて、急激な寒さの到来で硬くなってしまった体がどンドン溶かされていくような思いでした。自分の出来ることなら是非協力したいという嬉しい言葉に心が熱くなり、良いスタートが切れたと安堵しております。

助成を受けた「花王・コミュニティーミュージアム・プログラム 2008」の大きな特徴は、単に突出した団体に助成金を提供するだけでなく、助成を受けた諸団体が相互に経験交流を図り、ゆるやかなネットワークも構成し、ミュージアムとコミュニティが実り豊かな連携関係を実施においてより広く展開することに重きを置いているようです。

私は是非このビジョンを、私どものプロジェクトにも取り入れたいと思います。何をするにも人と人の繋がりが大切です。30人の数を多く感じるか、少なく感じるか、それは一人一人のネットワークの太さによるかもしれません。



## ～設立総会の概要について～

### 次回の会議には多くの意見をお願い致します。

この会は、既にご承知の通り「花王・コミュニティーミュージアム・プログラム 2008」の助成を受けて活動を始めた「21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”」の会です。構成メンバーにより、助成金を活用した機運を盛り上げるイベントの開催など年間事業計画を決めて行きます。構成メンバーが学習会・講習会・ワークショップなどを通して意見交換・検討を行うのが当初の目的となります。つきましては、12月16日の会議ではより多くの意見を持ち寄って下さる事をお願い致します。最終的には、イベントを通しながら市民の声を広く集め、市民に支えられるような会になる事を目的にします。

### 進行の方法と役割分担

世話人・・・伊達代表・的場・太細・林・渡辺      ニュースレター担当・・・小西・上野

今後の検討内容とスケジュール・・・別紙の通り

### 次回の開催日

12月16日(火) 18:30～ 噴火湾文化研究所 ゲストハウス

※会議終了後、「バー ゴンドラⅡ」(会費3000円)にて懇親会を予定しています。出席される方は、お手数ですが前日の15日までに事務局まで右記のメールまたは電話にてお知らせください。

## ～ブラボー“ミュゼ”～ <噴火湾文化研究所所長 大島直行 >



何はさておき、市民学芸員の会の皆さんが中心となられ設立された“ミュゼ”に、心からの賛辞をお送りいたします。先に伊達市で開催された北海道博物館大会において、大会テーマを「博物館づくりの楽しさを市民の手に」とさせていただきましたが、まさに、それを実践しようとしているのが皆さんの活動であり、そうした高い理念を持って取り組まれる皆さんの今後の活動には大きな期待が寄せられています。伊達市の開拓記念館は、誰もが認める老朽施設です。しかし、市民の皆さんからの建て替えを願う声はなかなか大きくなりません。財政や社会的な問題の山積する市政の現状の中で、文化にお金を使うことはなかなか勇気のいることですが、どんな状況にしろ、文化の価値が変わるものではないはずです。こうした価値観が市民の皆さんに共有されなければ博物館の建設は不可能です。“ミュゼ”の活動が、きっと市民の皆さんの文化意識を喚起してくれるものと確信しています。ブラボー“ミュゼ”。

## ～ミュゼ構成メンバーの自己紹介～

### 矢元信一さん

<だて市民学芸員の会>

<かけはしの会>



伊達に生まれ仕事で15年離れましたが、帰って来て伊達の歴史の深さを再認識しまし

た。知的好奇心を高めながら、少しずつ歴史文化の発信に関わりたいと思いますので、宜しくお願いします。

### 奥村孝裕さん <大雄寺副住職>

この度の「21世紀プロジェクト“ミュゼ”」設立をお祝い致しますとともに、参加のお声がけをいただきましたこと心より御礼申し上げます。



さて、当「胆振山大雄寺」は「亙理大雄寺」の末寺として明治13年に伊達家草創の菩提寺として建立され、伊達家累代の菩提はもとより、この伊達の地の開拓に生涯を捧げられた大勢の先達の御霊をおまつりし、深くご信仰をいただいております。また、現七世奥村孝善住職の「地域に開かれたお寺」という発願の下、多くの皆様にご協力を頂きながら伊達開拓の歴史を後世に残すための活動に力を入れてまいりました。今般、代表 伊達君代様にお声がけを頂戴しましたこと、まことに尊き仏縁ととらえ、若輩の身ではございますが皆様とともに活動させていただきます。どうぞ、よろしくお願いたします。

## ～博物館なるほど物語～



12月初旬のどんよりとした曇り空の下、JR松山駅に降り立った。目指すは千石城址。程なく“ふるさと歴史館”到着。静かな館内には仙台藩伊達家の重臣であった茂庭家ゆかりの文化財が展示してある。館を出、寒空の中、緩い坂道を登りながら三ノ丸・二ノ丸・本丸と進む。高台からは川を挟んで向こう側に涌谷の町が広がる。雨上がりの空には虹もかかり、美しい弧は川向こうの街にまで届きそうである。数百年前もここからの眺めは、今とさほど変わってはいないのだろうか

と、暫し思いを馳せる。下界に下り先程の歴史館に荷物取りに戻ると係りの女性が「寒かったです。どうぞ、こちらで温まって下さい。コーヒーでもいかがですか？」と声をかけて下さった。旅に出て美しい景色や貴重な展示物を見ること以上に嬉しいことは心暖まる一言であると実感した。

## “コーヒーでもいかがですか？” <だて市民学芸員 渡辺久美子>

と、暫し思いを馳せる。下界に下り先程の歴史館に荷物取りに戻ると係りの女性が「寒かったです。どうぞ、こちらで温まって下さい。コーヒーでもいかがですか？」と声をかけて下さった。旅に出て美しい景色や貴重な展示物を見ること以上に嬉しいことは心暖まる一言であると実感した。

### ニューズレター担当からのお願い



「博物館なるほど物語」を掲載いたしました。これから連載を考えております。つきましては、皆さんの投稿を募集致します。例えば、もう一度行ってみたい博物館・大事な人に紹介してあげたい博物館など、皆さんの思い出をお寄せ下さい。メール又は同封の用紙に記入の上、次回12月16日事務局までお寄せ下さいますようお願い致します。

## 【21世紀市民プロジェクト“ミュゼ”事務局】

〒052-0031 伊達市館山町21番地5 TEL 0142-21-5050 FAX 0142-22-5445

伊達市噴火湾文化研究所 ニューズレター 担当: 小西・上野

e-mail [bunka@city.date.hokkaido.jp](mailto:bunka@city.date.hokkaido.jp) HP <http://www.funkawan.net>